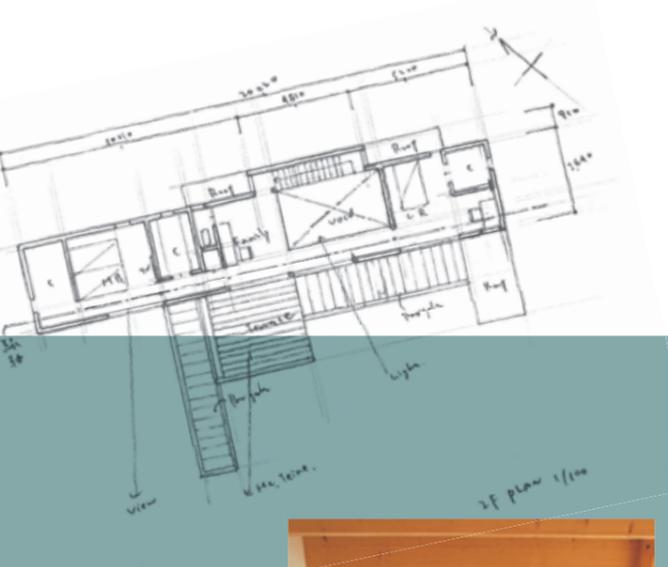
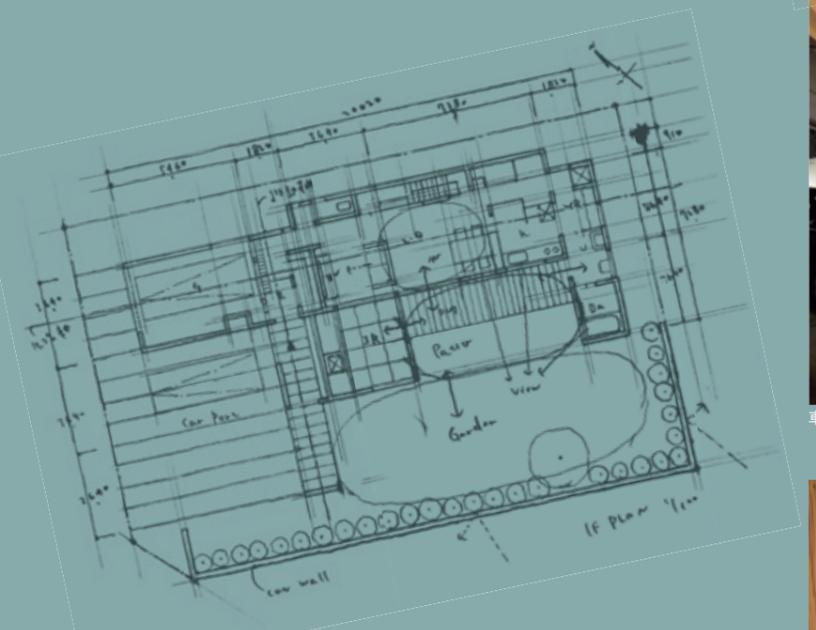


2階まで吹き抜けの大空間。
土地条件生かし明るく暖かく



南西の角地という特性を生かし、南西向きに細長く設計



車庫の壁に窓をつけた玄関ホール



2階からLDKまでの大空間



1段上がった和室の下は奥行き180センチの大収納

設計者からの一言 飯岡 哲司

約110坪の敷地に3人家族の住宅。どのようなプランも成り立つ状況で、設計のきっかけとなったのは、ご主人の「子どもの頃よく縁側で遊んだ」との言葉でした。その言葉がコンセプトとなり、3.6m×20mの東西に細長い矩形内に主要室が納まり、それに和室、水まわり、階段室が配置されるプランができあがりました。2階の南側はそれぞれの引き戸を開け放つと20mの長さの縁側状空間が現れます。また、建物を東西に細長くしたため南側に十分な広さの外部空間が生まれました。



いつも家族の気配を感じる家

石狩市・Kさん 夫婦50代・40代、子ども1人、母

「土地探しから建築士の紹介まで、全部脇坂さんにお世話になりました」というKさん。2世帯住宅を建てるにあたり、以前から空手を通じ交流のあった脇坂工務店の脇坂社長に依頼した。雑誌を見て「こういう家になりたい」と研究を重ねてきた奥さん。「明るい家」「リビングからの階段」「収納が多い」「和室」といった条件のもと提案されたのが、吹き抜けのLDKを中心に、どこにいても家族の声や気配を感じられる、明るく暖かな家だった。2階のファミリールームからキッチンまで、間仕切りのない大空間。その天井は細い木の梁をそのまま現し、開放感とデザイン性の高い設計となっている。「キッチンから外が見えるように」とか、家事動線を確保しつつ食品庫はたっぷり、おまけに風水まで、いろいろ注文をつけたんですけれど、思った以上の提案をしてくれて大満足の出来です」と喜ぶ奥さん。内装は温かみのある木を使ってナチュラルに。一日中光に満ち、明るい家となった。「なぜか落ち着く家なんです。友達を呼ぶ機会が増えました」とKさん。小上がりりの和室も大活躍という。家族が集い、友が集う家は、そのままKさん一家の明るく気さくな人柄を表しているようだ。

吹き抜け天井が開放的なLDKは木をふんだんに使った。ナラの無垢フローリングは、思わず裸足になりたくなる心地よさ。テレビ台と棚は造作

設計監理
一級建築士事務所
atelier i / あとりえ・あい
飯岡 哲司

施工
 (有)脇坂工務店
☎ 0120-711-525
本社営業部 小樽市銭函2丁目43-9
TEL 0134-61-2488
本店 札幌市東区北11条東4丁目5番地
TEL 011-785-2088
<http://www.wakisaka-EO.com>
※住宅雑誌「Replan」83号より抜粋。



南西の角地という特性を生かし、南西向きに細長く設計